

協会予防注射事業のワクチンの種類と一般的な注射プログラム

○ 牛のワクチン

ワクチンの種類	市販名	製造所名	有効期間	包装	用法・用量	一般的な注射プログラム
アカハネ病	アカハネ病生ワクチン【シード】	京都微研	製造後 2年3か月	5頭分(5mℓ) 10頭分(10mℓ)	1mℓ 皮下	毎年1回、繁殖牛に注射 本病流行前に免疫を付与するために、通常、4月～6月に注射しますが、本病の原因ウイルスを媒介する吸血昆虫の活動時期は地域により異なるので、注意してください
	アカハネ病生ワクチン※日生研【シード】	日生研				
牛5種混合(生)	※京都微研※牛5種混合生ワクチン	京都微研	2年3か月	5頭分(10mℓ) 10頭分(20mℓ) 1頭分(2mℓ) × 10	2mℓ 筋肉内	生後5か月齢までに1か月間隔で2回注射が望ましい ※移行抗体の保有状況により、1回目の注射月齢が異なります ※妊娠牛には使用できません ※種付予定牛に使用する場合は、種付予定3週間前までに注射を完了してください
牛5種混合(不活化)	ポビバック®B5	共立製薬	製造後 2年6か月	10頭分(20mℓ)	2mℓ 2回 (3～5週間隔) 筋肉内	生後5か月齢までに3～5週間隔で2回注射 以後は6か月から1年毎に注射 ※移行抗体の保有状況により、1回目の注射月齢が異なります ※妊娠牛にも使用できます
	※京都微研※キヤトルウイン-5K【シード】	京都微研				
牛6種混合(生)	※京都微研※カーフウイン6	京都微研	2年3か月	5頭分(10mℓ) 10頭分(20mℓ) 1頭分(2mℓ) × 10	2mℓ 筋肉内	生後5か月齢までに1か月間隔で2回注射が望ましい ※移行抗体の保有状況により、1回目の注射月齢が異なります ※妊娠牛には使用できません ※種付予定牛に使用する場合は、種付予定3週間前までに注射を完了してください
牛6種混合	※京都微研※キヤトルウイン-6	京都微研	3年	5頭分(10mℓ) 10頭分(20mℓ) 1頭分(2mℓ) × 10	2mℓ 筋肉内	生後5か月齢までに3～5週間隔で2回注射 以後は6か月から1年毎に注射 ※移行抗体の保有状況により、1回目の注射月齢が異なります ※妊娠牛にも使用できます
	※京都微研※キヤトルウイン-6	京都微研				
牛嫌気性菌5種	※京都微研※キヤトルウイン-O15【シード】	京都微研	製造後 1年7か月	10頭分(20mℓ)	2mℓ 臀部筋肉内	生後3か月齢以上の牛に1か月間隔で2回注射し、その後は6か月間隔で注射 ※2回目の注射は、1回目の注射とは異なる部位に行つて ※妊娠牛にも使用できます
牛下痢5種混合(不活化)	※京都微研※牛下痢5種混合不活化ワクチンII【シード】	京都微研	製造後 2年3か月	1頭分(1mℓ) × 10	1mℓ 2回 筋肉内	第1回目は分娩予定日前1.5か月に、第2回目は分娩予定日前0.5か月に注射 前年に本剤の注射を受けた牛は、分娩予定日前0.5か月に1回注射

○ 豚のワクチン

ワクチンの種類	市販名	製造所名	有効期間	包装	用法・用量	一般的な注射プログラム
豚丹毒(生)	スィムジェンE-L【シード】	松研(明治7-マールス)		20頭分(20mℓ) 50頭分(50mℓ)	1mℓ 皮下	【育成豚】 生後45～60日齢で注射 善感反応がない場合及び汚染豚舎は90日齢で注射 【繁殖豚】 6か月毎に注射(交配後2週間以内、妊娠末期、分娩後間もない時期の注射は避けてください)
	豚丹毒生ワクチン「科細研」【シード】	科細研	製造後 1年9か月	20頭分(20mℓ)		
	日生研豚丹毒生ワクチンG【シード】	日生研				
豚丹毒(不活化)	日生研豚丹毒不活化ワクチン【シード】	日生研	製造後 3年3か月	20頭分(20mℓ) 50頭分(50mℓ)	1mℓ 2回 (3～5週間隔) 筋肉内	生後5週齢以上の豚に3～5週間隔で2回注射 以後は6か月毎に注射
豚流行性下痢(PED)	日生研PED生ワクチン【シード】	日生研	製造後 2年3か月	10頭分(20mℓ)	2mℓ 2回 (2～8週間隔) 筋肉内	妊娠豚に対し、2～8週間隔で2回注射 2回目の注射は分娩予定の約2週間前 次回以降も同様
	TGE・PED混合	KMB(明治7-マールス)	製造後 2年2か月	10頭分(20mℓ)	1mℓ 2回 筋肉内	妊娠豚に対し、約3週間隔で2回注射 2回目の注射は分娩予定の約2週間前 次回以降も同様
TGE・PED混合	スィムジェン®TGE/PED	日生研	製造後 2年2か月	10頭分(20mℓ)	1mℓ 2回 筋肉内	妊娠豚に対し、約4～8週間隔で2回注射 2回目の注射は分娩予定の約2週間前 次回以降も同様
	日生研TGE・PED混合生ワクチン【シード】	日生研	製造後2年			

○ 鶏のワクチン

ワクチンの種類	市販名	製造所名	有効期間	包装	用法・用量	一般的な注射プログラム
ND・IB	日生研NB生ワクチン【シード】	日生研	製造後 2年3か月	1,000羽分	飲水、噴霧 点眼(0.03mℓ) 点鼻(0.03mℓ)	投与は28日齢以降に実施する。飲水投与の場合は、鶏の日齢に応じた量の飲水にワクチンを溶解し投与

○ 馬のワクチン

ワクチンの種類	市販名	製造所名	有効期間	包装	用法・用量	一般的な注射プログラム
馬3種混合	馬インフル・日脳・破傷風3種混合ワクチン「KMB」	KMB(明治7-マールス)	製造後 3年2か月	1頭分(1mℓ)	1mℓ 2回 (4週間隔) 筋肉内	【1歳馬】 ①11月～3月(基礎回目) ②基礎回目から4週以上2か月以内(基礎2回目) ③基礎2回目から2～4か月後(補強1回目) 【2歳馬】 ①5月～6月(補強2回目)
	エクスエクトJIT	日生研	製造後 2年3か月			
馬インフルエンザ	馬インフルワクチン「KMB」	KMB(明治7-マールス)	製造後 2年2か月	1頭分(1mℓ)	1mℓ 2回 (5週間隔) 皮下又は筋肉内	【1歳馬】 馬3種混合(補強1回目)注射後、5～7か月の間に注射 【2歳馬】 馬3種混合(補強2回目)注射後、6か月経過後に注射 【繁殖馬】 年に1回注射(妊娠8か月以上の馬は不可)
	エクスエクトFLU	日生研	製造後 2年3か月			
日本脳炎	※京都微研※日本脳炎ワクチン・K	京都微研	2年	20頭分(20mℓ)	1mℓ 皮下	【1回注射法】 3mℓ皮下注射 【2回注射法】1週間隔で2回、各1mℓ皮下注射 馬に1mℓずつを約1か月間隔で2回皮下注射
	日生研日本脳炎TC不活化ワクチン【シード】	日生研	2年6か月			
破傷風	破傷風トキシイド「日生研」【シード】	日生研	製造後 2年3か月	4頭分(20mℓ)	5mℓ 2回 (2週間隔) 頸部皮下	大動物:5mℓ/回 中動物:2mℓ/回 免疫持続期間は約1年間
	エクスエクトERP【シード】	日生研	2年3か月	1頭分(2mℓ)	2mℓ 2回 (4週間隔) 筋肉内	① 1回目 妊娠6～8か月月 ② 2回目 1回目注射から4週後に注射

○ ワクチンの取扱に係る注意事項

- 必ず冷蔵庫内で保管し、輸送時にも保冷剤などで冷蔵を保ってください。
- 使用説明書の用法・用量、注意事項などを守って使用してください。
- ワクチンの開封後は、速やかに使用してください。
- 有効期限がありますので、確認の上、使用してください。
- ワクチン接種後やむを得ず「と畜場」に出荷する場合は、接種から20日間経過してから出荷してください。

公益社団法人北海道家畜産物衛生指導協会